

地域おこし協力隊通信

第42回



リポーター…
小林正英 隊員



スカイランタン



会場の様子

皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の小林です。今回は、僕も協力隊として携わった『味アンフェスティバル2022 in 道の駅いたこ』についてお話ししていきます。

10月15日（土）道の駅いたこにて、『味アンフェスティバル2022 in 道の駅いたこ』が開催されました。主催は『株式会社いたこ』で、協力として、まちづくり会社である『株式会社KX』と『地域おこし協力隊』が参加。イベントの内容をざっくり説明すると、道の駅の夜のコンテンツとして、アジアのナイトマーケットをイメージしたお祭りを開催。アジアな料理を提供するキッチンカーの出店、アジアな雑貨屋さんの出店、40種類のトッピングができるフォア、ダンスステージとしてスカイランタンなどがありました。

会場は写真の通り大賑わい。フォア、キッチンカーは売り切れが続出。ダンスステージは大盛り上がり。フィナーレのスカイランタンはめっちゃくちゃ綺麗。大成功で幕を閉じることができました。ご来場ありがとうございました。

実はこのイベント、ノリで始めたんです笑。とある社長さんが飲み会で、社長：『道の駅のフォアで、自由にトッピングできるようにしたら、面白いんじゃない？』。小林：『面白いですわね！』。社長：『もうさ40種類のトッピングを用意して』。小林：『なんで40種類なんですか？』。社長：『フォア（4）だからだよ！』。小林：『…なるほど。こんなやり取りがきっかけで、始まったイベントがまさか実現するとは思っていませんでした笑。こういうイベントが実現する地域っていいですよ！これも皆様の協力があったこそだと思っています。本当にありがとうございました。』

今回のイベント、僕としては1回で終わらせるつもりはありません。大成功で終わったのですが、反省点も多かったと思っています。今後開催するであろう『ヴェネツィア祭（仮）』で今回のイベントの学びを活かせればと思っています。引き続きご協力よろしくお願います。それでは！

（協力隊 小林正英）

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

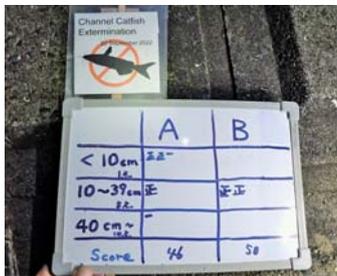
潮来市の誇れる自然

全国の大学生たちが外来ナマズ駆除に挑戦！

第75回



外来ナマズ駆除大会の様子



駆除大会のスコアボード



捕獲されたアメリカナマズ

首都圏に位置し、人の暮らしとの関わりも深い霞ヶ浦・北浦には、昭和初期以降、さまざまな外来魚が持ち込まれてきました。外来魚のなかには大増殖する種もいましたが、何年か経つと自然と減っていく傾向にあります。しかし、北アメリカ原産のチャネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）は、2000年代に増えてから減る様相がなく、外来魚のラスポスの存在に なっています。最近の研究によると、本種は霞ヶ浦のように波立ちやすく濁った水を好み、何でも食べ、また、他の魚からは食われづらいなど、容易には減りづらい特徴が示されています。

アメリカナマズ問題を題材に、9月21〜23日に、大学生向け公開実習「追跡！巨大ナマズ！湖沼の外来生物問題の最前線」を開催したところ、宮城教育大、筑波大、早稲田大、長崎大、鹿児島大、琉球大の学生たち11名が参加してくれました。

1日目は外来種問題の基礎を講義で学んだ後に、駆除釣りを体験。初心者でもイカの塩辛を工サにして簡単に釣れました。2

日目の午前には保全対象の絶滅危惧種や漁業対象種などの生物調査を体験し、午後からはA班とB班の班別対抗外来ナマズ駆除大会がスタートです。班ごとに独自の作戦を練り、日没までの2時間、競い合いました。得点の設定は全長10cm未満（稚魚）が1点、10〜39cm（未成魚）が5点、40cm以上（成魚）が10点です。様々な調査用漁具で稚魚から成魚を捕獲したA班がリードし続け、46点で勝利しそのな終了間際に、自作の釣り具で未成魚を次々と捕獲し猛追したB班が50点で逆転。歴史に残る好勝負で、学生たちの熱意とアイデアにスタッフは圧倒されました。3日目のプレゼンでは、班ごとに防除計画や今後の外来魚との付き合い方について深い議論もあり、大いに盛り上がりました。学生たちが提案してくれたアイデアをどう活かすか、いま考えているところです。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
加納光樹・碓井星二・高沢剛希・龍頭一生